

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート 等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1)体験的学習による授業に生徒の80%以上が満足している。	・「課題研究」や学校設定科目の「起業実践」を通し、問題解決型学習、作品制作、商品開発、プレゼン、地域や大学との連携活動など、実社会で役立つと考える能力を積極的に育成する。	A	A	A	・「課題研究」や「起業実践」については、多様化した生徒の希望に応じ、来年度も多くの講座を設定し探究的な活動となるよう推進した。	・生徒の多様なニーズに応じた取り組みを進めてほしい。
		(2)自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・学校行事、部活動など特別活動の充実と向上を図り、生徒が集団の一員として主体的に学校生活に参画できるように工夫する。 ・日頃より、学校への帰属意識を高め、生徒主体の活動になるように支援する。	A	A	A	・学校により意欲的に通うことができるよう、生徒の意見を反映させながら学校運営をしていきたい。 ・生徒の主体性を高め、学校行事に積極的に参加し帰属意識を高める活動を推進できた。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(3)生徒の実態を踏まえた学習指導に、生徒の80%以上が満足している。	・2年情報コースのソフトウェア活用で少人数授業及び習熟度別授業を実施する。また、2年会計コースの会計、原価計算においてチームティーチングを実施する。 ・ＩＣＴ機器の活用や協働的な学習を取り入れるなど、各教科で授業形態の工夫をはかり、双方向の活気ある授業を展開する。 ・日頃から、資格取得が進路希望実現や進路選択の幅を広げるものであることを生徒に理解させる。 ・生徒の資格取得実現のために、学校をあげて支援する体制を整える。簿記検定週間・英語検定週間を設定し、特別時間割で実施する。また土曜日・長期休業・放課後を活用して補習を行う。	A		A	・コース別の選択科目の充実を図り、多様な生徒のニーズに応える授業を提供した。 ・生徒の選択ミスが起こらないように選択科目の説明会などの充実を図っていきたい。	
		(4)本校の資格取得指導の実施に、生徒の80%以上が満足している。	・各教科で宿題・課題等を工夫し、家庭学習や朝学習の習慣の確立につとめる。また、宿題や課題を授業で有効活用し、知識の定着を図り、発展的な学習にも繋げる。 ・定期試験前の勉強時間の確保と、成績不振者を対象とした勉強会を実施する。	A		A	・資格取得においては生徒自身にとってどのようなメリットがあるかを説明し、生徒の自発的な行動を促すように努めた。結果、全商検定のみならず、実用英語技能検定などに積極的に挑戦する生徒も増加した。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(5)決められた宿題や提出物を毎回提出できている生徒が80%以上である。	・各教科で宿題・課題等を工夫し、家庭学習や朝学習の習慣の確立につとめる。また、宿題や課題を授業で有効活用し、知識の定着を図り、発展的な学習にも繋げる。 ・定期試験前の勉強時間の確保と、成績不振者を対象とした勉強会を実施する。	A		A	・各教科・科目における長期・中期・短期の学習の目的を明確にし、生徒が段階的に学習できる目安を提示し、それぞれの段階で自主的な学習が可能となるような意識改革を促すとともに、工夫された学習課題を通じ「確かな学力」を身に付けられるようにする。	
		(6)学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が、80%以上である。	・各科目ごとに具体的な目標を設定し、その達成に向け取り組ませる。生徒一人一人に定期的（学期毎）に目標に向けての進捗度を評価させ、達成度・満足度を確認する。	A		A	・個々が目指す検定等への費やした時間とその成果などを数値的に表すことができる指標を検討する。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(7)生徒会活動が充実していると評価している生徒が、80%以上である。	・生徒会役員が生徒会活動の主体となるよう、企画立案、行事の実施に積極的に関わらせる。 ・大きな生徒会行事に関しては、実行委員を中心に行事の運営にあたるなど、全生徒が行革に関わる体制を作る。 ・各部がそれぞれの目標を達成できるように、月ごとに活動計画をたてる。また生徒会、学校と各部顧問とが連携し、施設面などでの環境整備を行う。	A		A	・生徒発信で校則等の改正や行事の運営など教員が裏方に回り、生徒の自発的な取組を促した。	・生徒が自発的な取り組みで校則改正などを進めていくことは今後につながる活動になるので非常により取組である。 ・学校の活性化においてはスポーツという要素も大切である。今と同じく今後も継続してもらいたい。
		(8)部活動が充実していると評価している生徒が、80%以上である。	・ホームルームや教育相談だより等を通して、月2回のスクールカウンセラーの来校日時を全生徒に通知し、誰もが気軽に相談できる体制を構築する。	A		A	・部活動改革に対応しながら、日々の練習内容や部活理念を明確にする。また女子の部活動のさらなる振興を図る。	
		(9)教育相談が利用しやすいと感じている生徒が、60%以上である。	・年度当初作成した、全職員を5班に分けたローテーションにより、週1回の登校時指導を実施する。	A		A	・今後は学校全体で部活動の振興を図り、より生徒が主体的に取り組むことができる環境づくりに努めていく。	
		(10)登校時指導を毎月、組織的にを行っている。	・年度当初、学級担任を中心として、自転車の安全走行のための安全点検を実施する。	A		A	・生活アンケートの定期的な実施、不安を抱えている生徒に対してのケアやサポートなど教育相談と学年、担任が連携して取り組んだ。	
		(11)交通事故の発生件数が前年度比の80%以下である。	・通学時、複数回の街頭交通指導を実施する。 ・普段から個々の生徒の様子を観察することにより未然防止を図る。	A		A	・月1回の登校時指導に加え、下校時指導、昼休みの校内巡回を継続した。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	(12)いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	・通学時、複数回の街頭交通指導を実施する。 ・普段から個々の生徒の様子を観察することにより未然防止を図る。 ・学期ごとのアンケート調査により、早期の実態把握を行う。	A		A	・ヘルメット着用も増加傾向にあるので今後も継続していきたい。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(13)1日平均遅刻者数が、5人以下である。	・いじめ対策委員会を中心とした職員の観察により、未然防止に努めた。 ・学期毎のいじめアンケート調査による実態把握を行い、早期解消に務めた。	A		A	・いじめ発生時には全職員の共通理解のもと、いじめの解消を図った。	（進路報告会を参観し）主体的な取り組みをしていたと感じている。生徒自身がよく考え行動した成果を感じることができた。
		(14)中途転退学者が、在籍生徒数の0.5%以下である。	・学年回と連携し、月別欠席調査を実施する。 ・教育相談係やSCによる早期教育相談を実施する。 ・長期欠席者に対し週1回以上の家庭連絡を行う。 ・家庭と連絡を密にし、情報の共有を図る。	A		A	・本人の自己都合による遅刻、欠席が増加傾向にあった。学校への帰属意識を高め、生徒が主体的に学校生活を送ることができる環境づくりを担任・学年・生徒指導部が一体となって取り組んでいきたい。	
		(15)学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が、80%以上である。	・「進路の手引き」により進路に関する基本的な内容を理解できるようにするとともに、その充実を図る。「進路だより」を複数回発行し、最新情報の提供や進路学習の取り組みの状況など、適時的な進路情報の発信を行う。	A		A	・「今すぐ面接試験に行ける服装態度」を常に心がけさせ、校訓「至誠一貫」の実践を一人ひとりが考え具現化できるよう、生徒の育成を図った。	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(16)進路関係の行事が役立っていると評価する生徒が、80%以上である。	・進学先による校内進路ガイダンスを行う。 ・人事担当者による企業説明会を行う。	A		A	・HRIに担任が日々の生徒観察を徹底し、細かい変化にも迅速に対応できる体制づくりを構築していく。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(17)生徒の将来の志望について理解している保護者が、80%以上である。	・7月中旬に三者面談を実施する。 ・適時、進路についての二者面談を行う。 ・進路指導部担当職員が進学希望生徒に対し個別面談を実施し、進学生について適切なアドバイスを行う。		A	A	・商業高校特有の進路選択について学年で共有し、生徒に発信できるような体制を構築した。	・家庭での生徒が情報を伝えることは、難しい面もあると思う。しかし、発信をしていくことはとても大切である。
		(18)学校の進路指導について理解している保護者が、80%以上である。	・各学年の保護者会において進路講演会を実施する。3年生についてはPTA総会終了後に進路ガイダンスを実施し、欠席者が多い場合は第2回「進路説明会」も実施する。		A	A	・親子で進路のことについて話し合いが持てるよう進路希望調査を年に複数回実施した。また、最新の進路情報を提供することにより、より多くの保護者が関心を持てるように取り組んだ。	
		(19)PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が、70%以上である。	・保護者会開催にあたり、その意義を十分案内で周知徹底させ、保護者全員の参加を呼びかける。		A	A	・ホームページでの積極的な発信を行った。	
	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(20)学校の様子がよく分かると答えている保護者が70%以上である。	・PTA総会の日程に合わせて、授業公開を行う。 ・学校からの一斉メールを活用して、緊急情報や行事案内、保護者への連絡等を配信する。 ・学校ウェブサイト上で様々な情報を発信する。		B	B	・充実したPTAの活動や保護者会の実施に向け、より参加しやすい体制を構築していきたい。 ・学校見学会の内容を精選し、より生徒のニーズにあった企画を立案していく。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(21)ICTを活用した指導に、生徒の80%以上が満足している。	・一人一台端末を活用した授業を展開し、協同学習の充実をはかる。 ・進路指導において一人一台端末を活用し、データの共有ならびに生徒・保護者との連絡、情報共有の充実をはかる。 ・職員の100%が一人一台端末利用方法をマスターし、授業やクラスの担当者間で温度差が生まれないようにする。	A	A	A	・進路先の情報等をクラウドで管理し、連絡もSNSを活用したことで、生徒・保護者と連絡を密にした進路指導の一助とすることができた。	・今後生成AIの活用などが進んでいくと考えられる。使い方を含め、生徒・職員が効果的に活用できる体制を作ってほしい。
		(22)ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。	・職員打ち合わせにグループウェアを利用し、スムーズかつ連絡漏れの防止に努める。 ・資料や配布物のデータ化に努め、ペーパーレス化の運用体制をつくる。 ・担当分掌、学級以外にも業務の進捗状況の共有を図る。	A	A	A	・授業や行事、課程連絡用ツールとしてのclassroomの利用が生徒、教職員ともに定着している。今後も継続して推進したい。 ・ICTリテラシーの向上に向け日々の研修や、職員間の連携が密に行われた。今後もミスのないような運営をしていきたい。 ・ICTとSNSを活用した運用を充実させ、会議資料の情報共有とペーパーレス化の推進に努めた。	